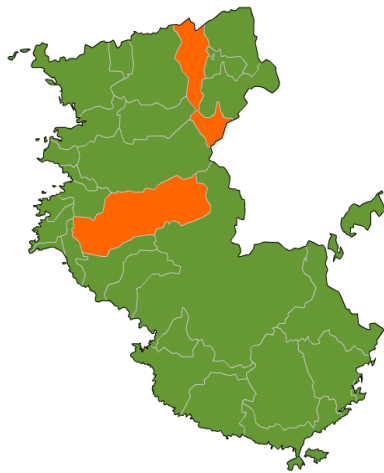


# 和歌山県日高郡日高川町および伊都郡かつらぎ町

## 「体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い」



### 【地域の基礎データ】

|       |   |
|-------|---|
| 人口：   | 9,938 人（日高川町/平成 31 年 1 月末現在）<br>16,926 人（かつらぎ町/平成 31 年 1 月末現在）  |
| 面積：   | 331.59 平方キロメートル（日高川町）<br>151.69 平方キロメートル（かつらぎ町）                 |
| 高齢化率： | 32.7%（日高川町/平成 27 年 1 月 1 日現在）<br>35.2%（かつらぎ町/平成 27 年 1 月 1 日現在） |
| 産業：   | 農業、林業 など（日高川町）<br>農業、製造業 など（かつらぎ町）                              |
| 観光資源： | 道成寺、ヤッホーポイント など（日高川町）<br>丹生都比売神社、串柿の里 など（かつらぎ町）                 |

### 【活動の基本情報】

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 参加学生数： | 13 名（1 回生：8 名、2 回生：4 名、3 回生：1 名） |
| 活動期間：  | 平成 29 年 5 月～                     |
| 担当教員：  | 東悦子、中串孝志                         |

### 1. 活動実施の経緯

本プログラムは 2 件のプログラムで構成された。一つは、和歌山県日高郡日高川町と大阪府泉大津市との友好都市連携に基づいた小学生の相互交流事業を土台と泉大津市ならびに日高川町在住の小学生を対象とした日高川町における 2 泊 3 日の体験教育旅行であった。もう一つは、和歌山県伊都郡かつらぎ町と大阪府和泉市との友好都市親善交流会を母体としたに 1 泊 2 日のサマースクールであった。後者のプログラムに関しては、事前準備を重ねていたものの、台風のために残念ながら中止となった。

以上のように本プログラムは、日高川町、泉大津市、かつらぎ町、和泉市、和歌山大学の連携事業であるとともに、大学内においては観光学部と教育学部の連携事業でもあった。また「体験教育旅行&夏学習」の主たる目的は、そこに参加する子ども達、つまり大規模校と小規模校の児童達の出会いと交流の創出であった。そして、子ども達を中心として、彼らを取り巻く大学生が指導や支援にあたり、さらに町、市、大学の教職員がその活動を見守り、適宜助言や支援を行った。

## 2. 活動の内容

和歌山大学観光学部と教育学部に所属する学生達が、それぞれの特性を生かしつつ協働することにより、屋内における子ども達のためのアクティビティおよび野外活動の企画・準備を行った。「体験教育旅行&夏学習」の当日は、両学部生が中心となり、子ども達の活動を支援し、アクティビティを運営した。

1. 事前研修 5月10日（木）開始（ほぼ毎週木曜日昼休み）
  - ・教育学部学生との顔合わせ
  - ・研修内容およびタイムスケジュールの確認
  - ・アクティビティの企画・準備
  - ・テレビ会議
  - ・現地視察
2. 日高川町サマーキャンプ 8月19日（日）～21日8日（火）  
※中串教員が引率
3. かつらぎ町サマーキャンプ 8月23日（木）～24日（金）  
※東が引率予定であったが、台風接近のため中止
4. 日高川町における農業体験&環境学習 10月20日（土）
5. 事後研修 10月～1月30日（水）まで5回
  - ・事後報告書の作成を通して、各自が研修内容を振り返る。
  - ・今回のLIPの改善点について討議する。

## 3. 活動を通じて

事後研修から次のような学生の状況が把握できた。小学生と活動する経験の少ない観光学部生にとって、児童との交流は楽しく良い経験であったと同時に、落ち着きのない児童などへの対応に困惑する状況も生じたようだ。またアクティビティを実施し、入念に準備したつもりが、実際は準備が不十分であった点に気づくこともあった。このような経験から事前準備の重要性を認識するにいたった。さらに、今回のプログラムは教育学部生との連携を図る必要があったが、学部の特性を活かして連携する難しさも感じたようである。総じて、さまざまな学びを得た様子がかがえた。

改善すべき点はあったものの、3日間を参加した子ども達が楽しく交流し、笑顔で帰途についたことが、当プログラムの成果をあらわしていたといえる。大学生が最後まで活動を取りしきり、それぞれの今後につながる経験となった。

## 4. 成果物など

事後研修を通して、学生達が自ら今回の活動を振り返り、評価すべき点や今後の改善点を指摘した。今回のふり返りを次回のプログラムに活かしてくれることを期待する。